

臼杵市まち・ひと・しごと創生
総合戦略
(概要版)



平成27年8月
臼杵市

臼杵市まち・ひと・しごと創生 総合戦略
めざすべき 将来のうすき



自然、歴史・文化とともに育んできた

「日本の心が息づくまち 臼杵」
～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ～
〔 第二次臼杵市総合計画（2015～2024） 〕

100年後も持続可能なまちをめざして

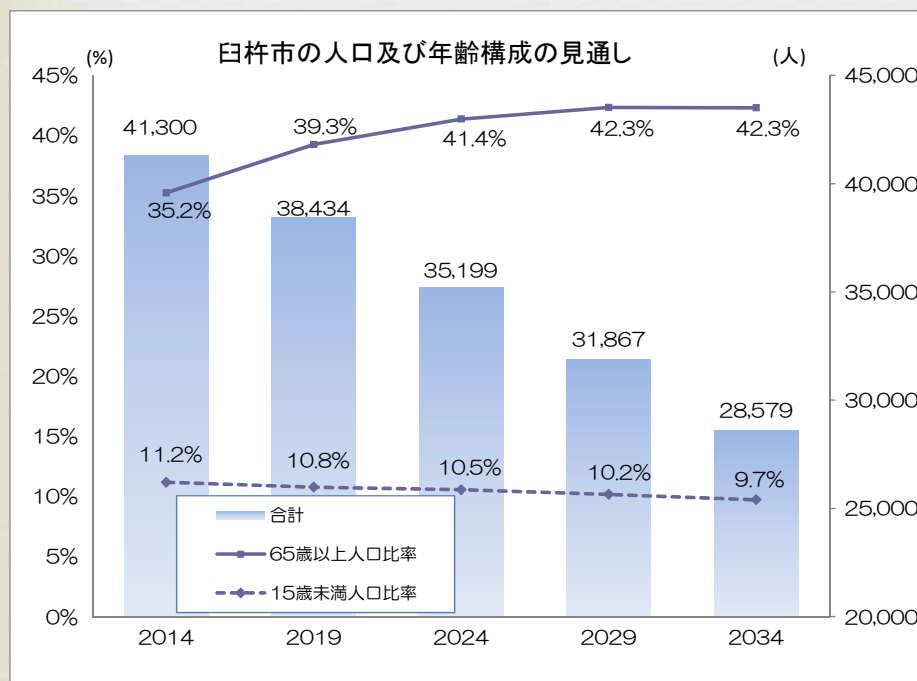
臼杵市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 構 成



- ❧ 第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析
- ❧ 第2章 長期人口ビジョン
- ❧ 第3章 総合戦略
- ❧ 平成27年度から実施する具体的なアクションプラン

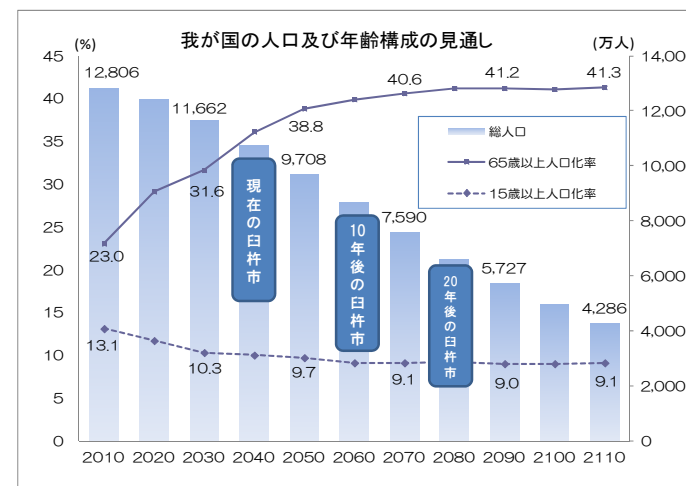
第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

- ❧ 臼杵市は、高齢化率（65歳以上人口比率）が既に35%を超えており、人口も減少局面にある。この傾向は、今後も続き、5年後には高齢化率は40%の水準となり、20年後には、人口も3万人を割ってしまう
- ❧ 臼杵市は、全国に先駆けた高齢化の先進地と捉えれば、今、まさにこの課題に取り組み、持続可能な地域づくりができれば、いずれは同じ状況になる全国のモデルとなりうる



- 臼杵市の高齢化は、すでに20年後の日本の姿。高齢化の先進地として、様々な課題に“いますぐに”取り組んでいる。

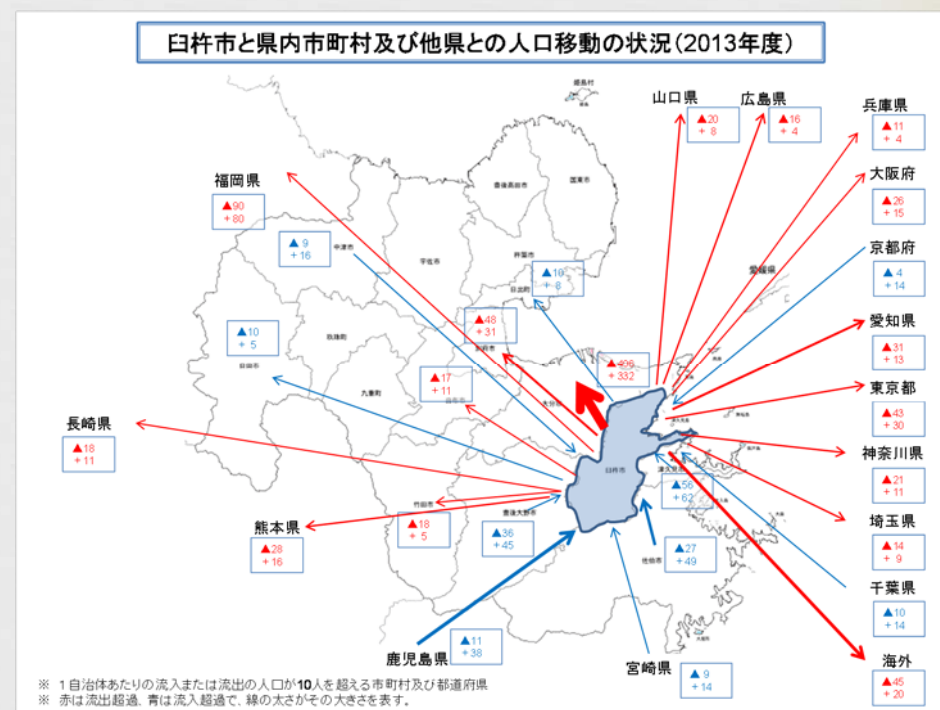
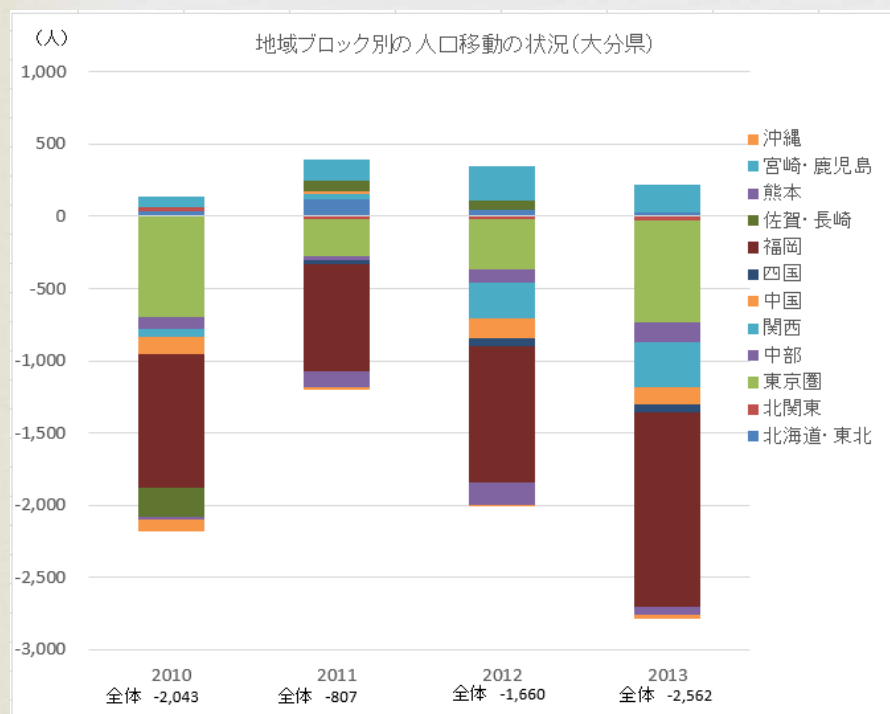
臼杵市の少子高齢化と全国との比較



(出典)「日本の将来推計人口(平成24年1月推計、中位推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

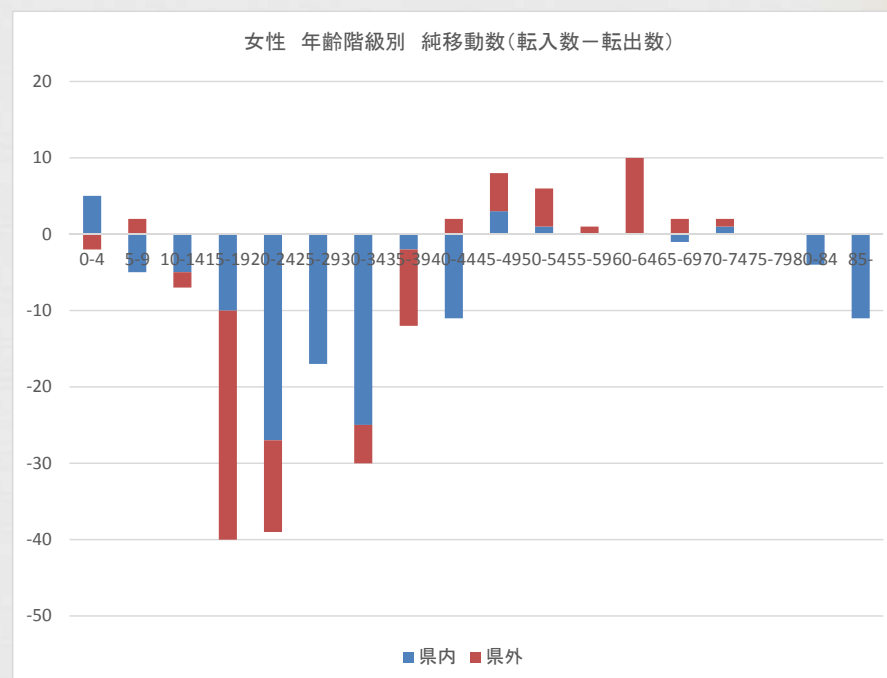
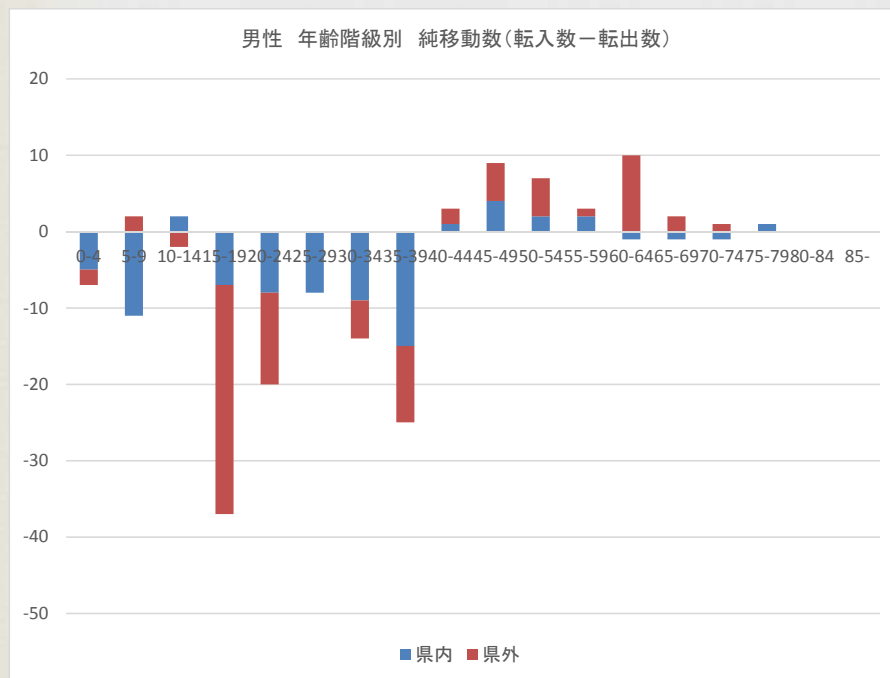
第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

- 大分県からの流出を地域ブロックごとにみると、福岡県への転出傾向、続いて、東京圏への転出傾向の割合が高くなっている。特に、この2年は転出超過が大きくなっている。
- 臼杵市の転入、転出の状況を見ると、243人の転出超過となっており、人口減少の大きな要因となっている。その内訳は、女性の方が多く、大分市への流出が全体の半数を超える。



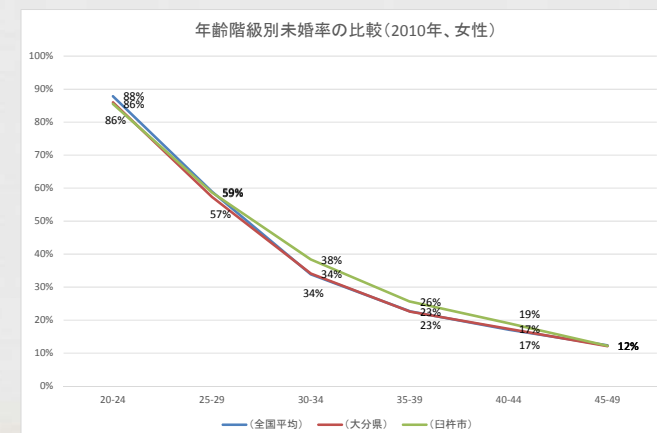
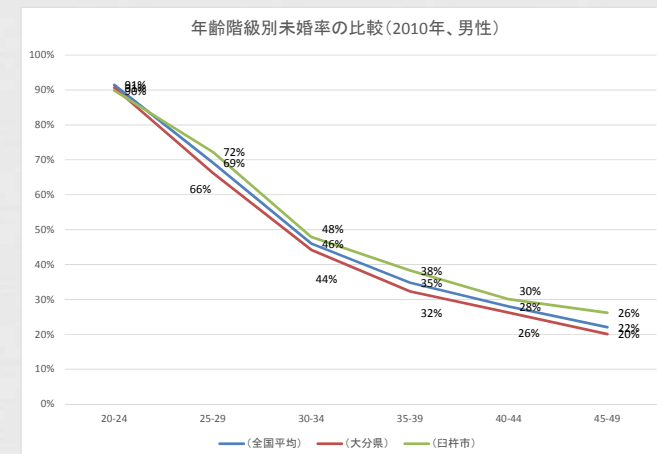
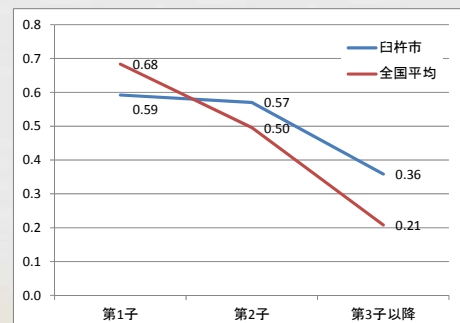
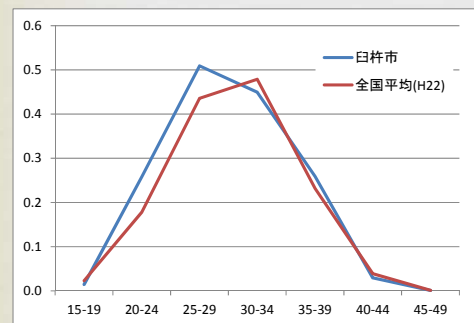
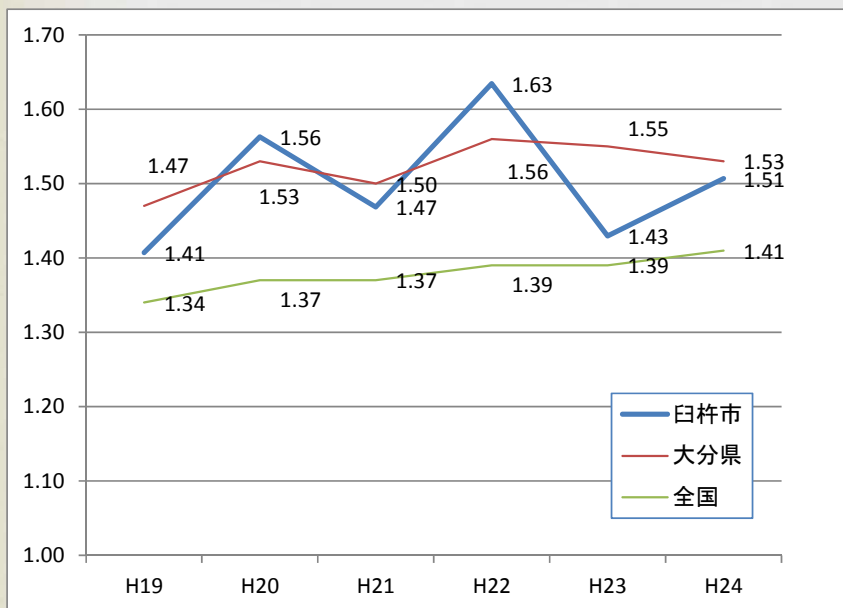
第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

- ❧ 白杵市の年齢階級別の社会増減（転入数－転出数）の状況をみると、男性については、15-19歳から35-39歳で転出超過となっている。10歳代後半又は20歳代前半は進学または就職で転出すると考えられ、30歳代になってからは結婚または住宅購入などで転出していると考えられる。
- ❧ 女性については、男性よりも多く流出している。特に、20歳代前半から30歳代前半の結婚・出産期において、県内（特に大分市）への流出が大きい



第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

- ❧ 臼杵市の年間出生数は300人を下回っており、合計特殊出生率は、概ね大分県平均と同じ水準で、1.5程度で推移している。
- ❧ 第2子、第3子以降の出生率が全国平均を大きく上回っており、多子世帯が多い一方で、第1子出生率が低く、出会い、結婚に結びつける取組が必要である。
- ❧ 未婚率の状況を見ると、特に、30歳代において、男性、女性ともに、全国平均よりも、そして、大分県平均よりも未婚率が高くなっている。

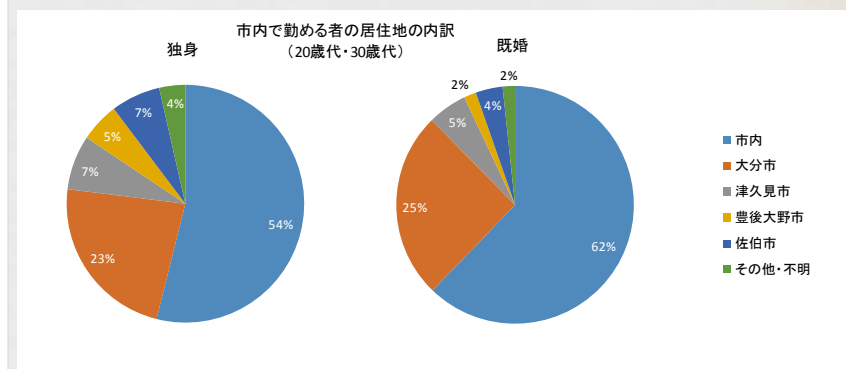
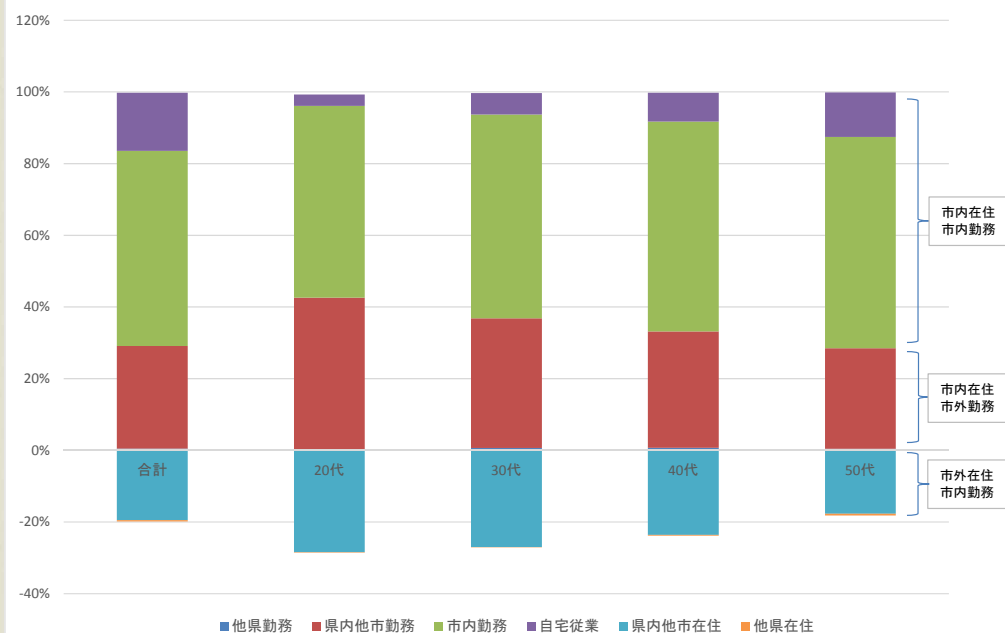


第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

- ❧ 白杵市は、市内在住者の約7割は市内で就業しているが、3割は市外に通勤している。また、2割相当の人が市外から白杵市に通勤してきている。年齢階級別にみると、若い世代については、市外に通勤する者の割合も高いが、市外から通勤してくる者の人数も多くなっている。
- ❧ 市内で勤める人の居住地の内訳をみると、独身の人では23%、既婚の人では25%が隣接する大分市から通っている。その多くが賃貸物件を借りて住んでおり、白杵市内に、若い人が借りて住めるような物件が少なく、家賃も相対的に高くなっていることが原因と考えられる。



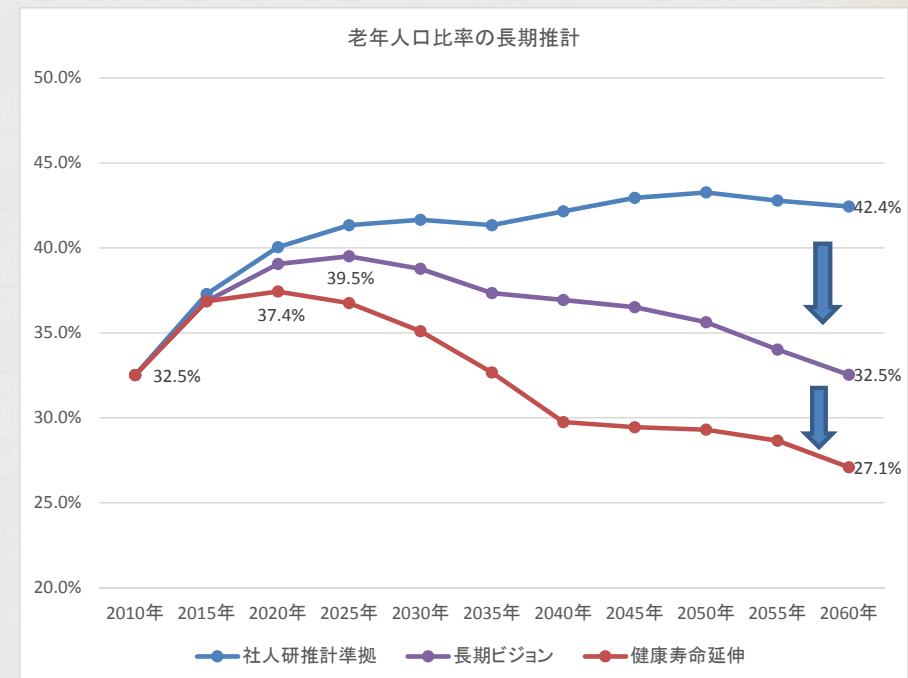
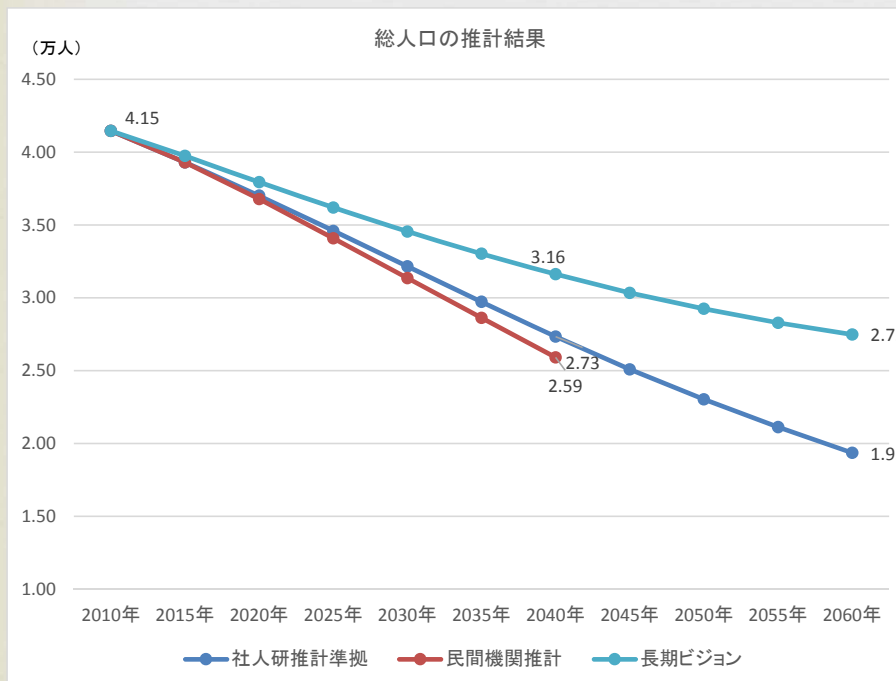
就業者の居住地と勤務地の関係



第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

人口や経済に関する様々な分析とシミュレーションによって、数値目標を設定

若い世代の希望が実現する環境を整え、**合計特殊出生率は平成42(2030)年で2.0程度、平成52(2040)年で2.3程度に**
人口減少の流れを変え、**若い世代を中心に年間90人程度（45世帯）、流出が少なく、または流入が多くする**



第1章 長期人口ビジョン策定の基礎となる人口分析

〔 目標値が実現した場合の人口及び人口構成の姿 〕

- 現在4万人程度の臼杵市の人口は、放置しておけば、50年後には2万人を下回る。これを、諸施策を講じることで、2.75万人を維持できる。
機械的に100年後を見通すと、人口は0.75万人まで減ってしまうところが、2.5万人程度で維持できる（100年後も持続可能）。
- 出生率の上昇と若者世代の流出が減ることで、人口構成も若返りが見られ50年後には今よりも高齢化率が下がる。
さらに、健康寿命の延伸（今よりも健康寿命を5歳伸ばす）の取組みを行うことで、地域で支えられる人が減り、支える人が増えることで活力が生まれる

第2章 長期人口ビジョン

めざすべき将来の方向

■ 1 「日本の心が息づくまち白杵」～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ ～
100年後も持続可能なまちをめざして

◎ 今後めざすべき、白杵市の将来の方向は、数百年にわたり築き上げてきた白杵の歴史や文化を後代にも引き継ぎ、日本中、そして、世界中に対して、「日本の心」を発信できる白杵のまちづくりを着実に進める。

◎ 一粒の真珠のように、小さくてもキラリと輝く白杵のまちを創りあげることで世界に誇れる日本社会の活力につながる。

(1) 人口減少に歯止めをかける。

今後100年にわたって、そして、その後もずっと、白杵市が持続可能であるためには、人口減少に歯止めをかけなければならない。まずは、様々な分野にわたる総合的な取組を長期的・継続的に実施することにより、白杵市の出生率を向上させるとともに、白杵市で子育てをすること、暮らすことの魅力を高めていくことで、社会減少を小さくしていく

(2) 若い世代の希望が実現する環境を整え、出生率は平成42(2030)年で2.0程度、平成52(2040)年で2.3程度に向上させる。

若い世代の結婚・子育ての希望が実現するのならば、全国平均の出生率は1.8程度の水準まで向上する。さらに、大分県における結婚の希望と結婚後の希望子ども数に基づいて計算すると、全国平均よりも+0.2上回る2.0程度の水準まで向上する。

白杵市における出生率は、概ね大分県平均で推移していることから、若者世代の希望がかなった場合の目標値として、平成42(2030)年に合計特殊出生率が2.0程度まで回復することを目標とする。

さらに、人口減少に歯止めをかける観点で国が平成52(2040)年に2.07になることを目標としていることから、+0.2上乗せした2.3程度を目標とする。

第2章 長期人口ビジョン

■ 2 国が進める地方創生の取組みが白杵市にもたらす影響と日本社会の姿

(1) 白杵市にある地域資源を活用した、多様な地域社会の形成をめざす

白杵市らしい風情、歴史、文化といったものを今の形でしっかりと残し、それを日本全国に、そして、世界中に広めていくことが、室町時代に大友宗麟によって今の市街地が形成され、数百年にわたって創り上げられてきた白杵市の生き残る道である。

そのためにも、白杵市として、将来の成長・発展の種となるような地域資源を掘り起し、それらを活用していく取組みを息長く進めていく必要がある。「まちおこし」は「まちのこし」の精神で取り組んできた白杵市のまちづくりの考え方がまさに生かされるべきときであり、白杵市に「ないもの」ではなく、「あるもの」を探し、「ないこと」をチャンスと捉え、チャレンジしていく。白杵市としての自主性・自立性を高めて、分権型社会のお手本を創り上げる。

(2) 外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る

白杵市には、様々な地域資源があり、それが宝の山のように眠っている。白杵市の潜在力をもっと引き出すためには、白杵市だけで閉じるのではなく、外に向かって地域を開き、外部の良さを取り込み、外部と積極的につながっていくことが重要である。課題先進地域である地方都市である白杵市の取組は、日本全体のモデルとなれるよう施策を展開していく。

(3) 白杵市の創生の実現が、日本の創生につながる

白杵市は、この「長期ビジョン」に基づいて、「白杵市版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を創り上げる。そして、その取組によって、白杵市で「しごと」がつけられ、それが「ひと」を呼び、さらに「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環が確立されるならば、「まち」は活力を取り戻し、人々が安心して働き、希望どおり結婚し、子どもを産み育てることができる地域社会が実現することとなる。

白杵市のような地方都市が創生することが、日本の創生である。この町で生まれ、育ち、巣立っていく子どもたちが、多様な価値観、十分に高度な知識・技術をもって世界に羽ばたいていく、そうした環境を整えていけば、白杵市を起点として、世界に誇ることができる日本社会が創り上げられる。

第3章 総合戦略

■ 重点戦略

この総合戦略で推進する重点戦略は、国の総合戦略に則って、4つの柱を設けている。

(I) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

まず、第一次産業については、従来から進めてきた有機農業推進の取組み、100年の森づくりなどを引き続き推進するとともに、農業、林業、水産業の一次産業の産品に付加価値をつけ、6次産業化を進めていく。

また、山の資源、海の資源に恵まれた臼杵市にとって、自然エネルギーの有効活用は循環型社会の創設と域内経済の活性化につながる。

創業100年を超える企業がたくさんあることも臼杵市の特長であり、従前からある産業をしっかりと支えるとともに、イノベーションの創出によって生産性を上げていく取組みも重要である。

行政との連携が築き上げられている医療・介護サービスなどで若い世代の雇用の場を整え、女性や高齢者が活躍し、能力を十分に発揮する社会を創ることも重要である。

さらに、海外の市場、特に新興著しい新興国等と積極的につながっていくことは重要である。和食をはじめ日本の食文化の普及とともに、我が国の農林水産物や食品の輸出促進を進め、グローバルな「食市場」の獲得をめざすことが望まれている。

こうした取組みを推進することで、若者の安定した雇用創出数を、平成31(2019)年までの5年間の累計で300人をめざす。

第3章 総合戦略

■ 重点戦略

(Ⅱ) 地方への新しいひとの流れをつくる

特に若い世代を中心に、移住定住策により都市部からの流入を増やすことに加え、隣接する大分市に流出している若者世代が、臼杵に住みたいと思えるような環境を整えていく。また、移住者の生活の糧を得るための就労の場を整える取組みを推進する。

さらに、日本の魅力、そして、臼杵の魅力を活かした観光分野も大きな飛躍のチャンスである。幸い臼杵市には、地域資源が宝の山のように眠っている。臼杵市の潜在力をもっと引き出すためには、臼杵市だけで閉じるのではなく、外に向かって地域を開き、外部の良さを取り込み、外部と積極的につながっていくことが重要である。古くからある日本の歴史・文化を海外の人にも知ってもらうための観光戦略も展開する。

こうした取組みを推進することで、臼杵市から都市部への転出を平成31(2019)年時点で、平成25(2013)年比で50人減少させ、うち、大分市を中心とする県内への転出を30人減少させる。さらに、都市部から臼杵市への転入を平成31(2019)年時点で、平成25(2013)年比で40人増加させ、うち、大分市を中心とする県内からの転入を20人増加させる。

第3章 総合戦略

■ 重点戦略

(Ⅲ) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

臼杵市において、子どもを産み育てやすい環境を整え、子育て世代が希望数子ども数を産めるようにする。

臼杵市においては、未婚率が全国平均や大分県平均以上に高いといった実態があり、若い世代における結婚の希望の実現を図ることが重要となっている。若い世代の希望を実現するためには、結婚から妊娠・出産、そして子育て、さらには、子どもが巣立っていくところまでの支援を継続的に行っていくことが重要である。

周辺部の集落では子ども数が極めて少なくなっており、気軽に相談できる相手がいないなど子育ての孤立が顕在している実態を踏まえ、相談体制の強化など臼杵市らしい子育て支援策が求められている。

育児休業などの取組みは進展しているが、特に男性の育児休業取得率が低いことが指摘されている。育児は、女性のみならず、男性の問題でもあり、育児・家事に男性も主体的に参画することが重要である。

長時間労働など「働き方」に関わる問題は、男女を問わず子育て世代に大きな影響を与えていることを十分認識し、官民挙げてその改善に取り組む必要がある。

こうした取組みを推進することで、地域における子育ての環境や支援への満足度が高いと考える人の割合を平成25(2013)年30.0%のところを平成31(2019)年には50%以上をめざす。また、30～34歳の未婚率は、平成22(2010)年で男性48%、女性38%のところを平成32(2020)年で男性44%、女性34%をめざす。40歳代前半の既婚女性の平均子ども数は、平成26(2014)年で2.02人のところを平成42(2030)年で2.24人に増やすことをめざす。

第3章 総合戦略

■ 重点戦略

(Ⅳ) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

白杵市にある自然環境や歴史・文化の活用、人と人のつながりを活かした地域づくりなど、白杵市らしい取組みを広げていく。そして、高齢者ができる限り健康な状態を保ち、経済社会に参加することができる「健康寿命」を伸ばし、高齢期でもできる限り就労、または社会参加する「健康長寿社会」が到来すれば、高齢社会の事態は更に改善する。

地方都市ならではの距離的な不便さにおいても、ICTの活用等を通じ、若い人材が豊かな地域資源を活かして、新たなイノベーションを巻き起こすことができれば、課題も克服でき、活力ある白杵市を創生していくことができる。

これらの環境が整い、都市部の高齢者も地域での暮らしに馴染むことができるよう時間をかけて、地元住民との交流の場を設けることで、日本版CCRCの受け皿に十分になりうる地域性を持っている。

周辺部の集落で暮らす人にとっては車が必須であり、それが乗れなくなった高齢者にとっては、買い物や通院など大きな苦勞を強いられるため、公共交通等の整備の検討が求められている。

また、全体を通して、これらの取組みは、行政だけでなく、大学や企業等と連携し、さらに、国、大分県、そして、周辺市町村も同様の取組を進めることができるよう連携を図っていく必要がある。

特に、白杵市はフェリーでの九州の東の玄関口となっており、対岸の愛媛県及び八幡浜市との連携も地域活性化の重要な鍵となる。

こうした取組みを推進することで、白杵市の平均寿命は、平成25(2013)年の男性79.06歳、女性86.69歳が、平成31(2019)年には男性81.03歳、88.00歳となり、また、健康寿命は、平成25(2013)年の男性76.28歳、女性80.52歳が、平成31(2019)年には男性78.53歳、女性82.45歳となることをめざす。

さらに、白杵市の満足度評価が、市民意識調査結果で平成25(2013)年68.6点を、平成31(2019)年70.0点となることをめざす。

第3章 総合戦略

(Ⅰ) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

施策1: 臼杵の資源を活かしたほんまもん農業・漁業・林業・商業の振興、雇用の拡大

KPI: 若者の安定した雇用創出数 年間30人

PJ1 「有機の里うすき」の実現プロジェクト

PJ2 自然エネルギー資源を活用した循環型の臼杵づくり

PJ3 豊後水道の恵み、ほんまもん漁業の振興

PJ4 400年以上の歴史を育んできた商業の町の再興

PJ5 地場に力を注いできた100年企業と新規企業(産業)の相乗効果による経済活力

施策2: ふるさと「うすき」を全国に、そして世界に知ってもらうための戦略

KPI: 若者の安定した雇用創出数 年間10人((Ⅱ)の観光振興を含めて)

PJ1 「うすき」にあるものを発信し、臼杵と人をつなぐ

施策3: 臼杵ブランドの確立(6次産業化の推進)

KPI: 若者の安定した雇用創出数 年間20人

PJ1 特産品の開発・販路拡大

PJ2 「食」と「健康」をつなぎ、観光産業へ寄与する事業推進

(Ⅱ) 地方への新しいひとの流れをつくる

施策1: ふるさと臼杵U I Jターンによる「うすき暮らし」の推進

KPI: 市外から臼杵への転入移住者数 年間40人以上増加

PJ1 移住・定住者居住支援事業

PJ2 ふるさと臼杵U I Jターン推進事業(臼杵に移住したくなるプロジェクト)

施策2: 観光戦略推進による交流人口アップ

KPI: 観光客人数 1割増、外国人観光客人数 2割増(5年後)

PJ1 歴史・文化・自然環境など地域資源の魅力発信

PJ2 おもてなしの環境づくり

(Ⅲ) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策1: 安心して産み育てる「臼杵で子育て中」の充実

KPI: 臼杵で子育てしたいと思う親の割合 90%(2019年度)(現在:子育て環境への不満27.5%⇒10%)

PJ1 子育て満足度アッププラン

PJ2 働くママ・パパ応援プラン

PJ3 「臼杵産」安心安全でおいしい食材で育つ「健やか臼杵っこ」

施策2: 夢と希望を叶える婚活の推進

KPI: 年間婚姻数20組増(対2013年比)、30〜34歳未婚率(2020年):女性34%、男性44%(各2010年比▲4%)

PJ1 夢と希望を叶える婚活プロジェクト

施策3: 学校・家庭・地域で心のかよいあう交流を通して「生きる力」を身につける学びの推進

KPI: 全国学力テスト 小学校・中学校偏差値 55、
「臼杵が好き」と言える子どもの割合 90%(ともに2019年度)

PJ1 誠実にたくましく「生きる力」を身につけるための教育の実施

PJ2 ふるさと臼杵に誇りと愛着・希望を持った「臼杵大好き臼杵っこ」を町全体で育てる教育の実践

(Ⅳ) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

施策1: みんながつながり支えあう地域の絆づくり

KPI: 地域主体の活動回数 現在の1.5倍(現状約580回/年)、災害時要援護者の把握 100%
認知症サポーターの数 1万人(2014年度末4570人)
介護保険要介護認定率 2%改善(2013年度末18.9%)(いずれも2019年度)

PJ1 地域内の交流・地域間の交流の促進

PJ2 医療 I Tインフラを活用した医療保健介護サービスの充実

PJ3 「食」と「健康」を通じた生活習慣の改善

PJ4 高齢になっても安心して暮らせる基盤整備

2. 大学や企業等との連携を強化・推進した地域の絆づくり

KPI: 大学や企業との連携に関わった事業 2割増(2019年)

PJ1 臼杵にある地域資源を活用した連携

PJ2 大学や企業の新たな風を取り込み、地域を活性化

3. 地域と地域を連携し、臼杵に人が集まる取組み

KPI: 四国からの観光客数 ○割増、関西からの観光客数 ○割増
大分市との公共交通の利用者数 ○割増(いずれも今後調整)

PJ1 数百年にわたって受け継いできた歴史や文化を通した市町村間の連携

PJ2 九州・四国など広域で地域をつないで魅力を発信

PJ3 地方中核拠点都市構想により、大分市を中心とした広域行政の実現